



第1099号
2008年11月2日発行
日本聖公会東京教区
港区芝公園3-6-18
編集人 伊藤裕元

WEB: http://www.nskk.org/tokyo/index.htm E-MAIL: comm.tko@nskk.org
Phone: 03-3433-0987, Fax: 03-3433-8678 Diocese Office

◇11月の代祷・信施奉獻先
▽笹島キリスト教連絡会のため
▽滝乃川学園のため▽障害者週間のため(11日〜17日)
▽人権活動を支える主日(11月最終主日=30日)

◆とこしえの平安
10月19日 鈴木 たま(92)

聖テモテ

10月20日 高木 三郎(86)

聖アンデレ

10月20日 横地 トモ(96)

目白

10月21日 関口寿恵子(82)

三光

10月21日 須賀 多美(91)

聖十字

故松井米太郎主教息女

▽銀座朝拝会11月(第2・第

今週・来週の予定

11月2日~15日

- 2(日) 聖霊降臨後第25主日
主教巡回
東京諸聖徒教会
- 3(月・休) 教区墓地礼拝
- 4(火) 常置委員会(臨時)
- 5(水) 教区企画室
エルサレム教区協働委員会
- 6(木) 人権委員会(日の丸・君が代)
常置委員会(臨時)
下町G牧師協議会(聖ルカ)
- 7(金) 教財務サービス委員会
- 9(日) 聖霊降臨後第26主日
主教巡回 三光教会
- 11(火) 銀座朝拝会
常置委員会
インターネット~特別委員会
- 13(木) 月島~特別委員会
財政委員会
- 14(金) 広報委員会
- 15(土) 「調査チーム報告書」学びの会(主教座)

4火曜) 11日・25日7時半。会場||ルノール喫茶室ニユー銀座。照会先☎042(796)1498・世話人。

▽西新の会11月(第2・第4火曜) 11日19時半||聖餐式・高橋頭司祭 25日10時半||聖書の学び・関正勝司祭。照会先☎03(3951)5010・目白

聖公会。
▽聖路加国際病院礼拝堂定例オルガンコンサート&夕の祈り 11月5日(水)、18時半、19時からそれぞれ。演奏者||英貴子。入場無料(会場献金)。

◇秋のバザー情報6
8日(土)||葛飾学園・11時~14時半(追加)

《掲載記事の転用可(事前連絡要)》

神様の恵みに満たされている瞬間と
いうのを多々感じる人生です。多くの
場合、人々との出会いの中でそれは起
こります。

3年くらい前のことですが、とある
カップルが結婚の危機を通して、お互
いの違いを克服、
新しいより深い愛
を、お互いに赦し
受容することによ
り得ることができ
ました。彼らと共
にこの経験を分か
ち合えて私はとても嬉しく思い、ま
た、神様をすごく身近に感じました。彼
らには息子さんが1人生まれました。
米国へ家族で帰国する前にその息子さ
んに洗礼を授けるといふ特別な恵みに
あずかることができました。

日々新たな挑戦

司祭 ランドル・ノーラン

複雑であることを知りました。神様は私
たちを気分良く楽しませるだけではあり
ません。多くの場合、試練を与え挑んでこ
られます。第三者を赦すということは代
価をとまいません。神様が私に対して慈
悲深くあるように私も皆さんに対してそ
うありたいです。イエス様は
「わたしたちの罪をおゆるしく
ださい。わたしたちも人をゆる
めます」と祈りなさいと教
えています。神様の恵みはた
だ単に受け取るだけではな
く、私たちが他者へ与える
ものでもあるのです。

私は、身の回りで起きた物事を通して神
様が一体何を言わんとしているのかに注意
深くあるよう、未だに学んでいる最中で
す。日々新たな挑戦がやって参ります。神
様の恵みそれはけつして止むことのない
ように思えます。(聖オルバン教会牧師)

▽延期されていた「人権問題調査チーム報告書」学びの会、あらためて開催 11月15日(土)13時～14時(報告書精読)、14時～16時(学びの会)、聖アンデレ主教座聖堂で…と、教区主教・常置委員長名で、各教会信徒及び前回の会(8月末)の申込者に案内が出されている。

▽浅草聖ヨハネ教会で「文化財と古楽コンサート」 同教会が先頃、国の登録有形文化財となったのを記念するレクチャーコンサート。リュートやリコーダーなどの古楽器などの演奏では、教区聖歌隊(指揮・那須輝彦)による声楽アンサンブルや、立教プレトリウス器楽アンサンブル、リュート奏者永田斉子の演奏などが。また演奏に

先立ち金澤正剛国際基督教大学名誉教授(日本音楽学会会長)の解説なども。15日(土)15時開演(19時頃終演)。チケットは教会関係者2千5百円(一般3千円)、座席は列席指定。申込先は同コンサート実行委員会・TEL03(6715)7801。

▽目白聖公会で「今、ガザはどうなっているのか・講演会」

NGOパレスチナ子どもキャンペーン主催で15日(土)16時半。古居みずえ(フォトジャーナリスト・映画監督)と佐々木卓也(同キャンペーン・インターン)による映像と報告。照会TEL03(3953)1393。主催者事務局。

▽立教女学院チャペルコンサート 15日(土)14時、同院

聖マーガレット礼拝堂。演奏は小く短大各聖歌隊、中・高各バンドベルクワイヤー。入場無料、スリッパ持参。また13時から、同院総合体育館で今夏、全日本ダンスフェスティバル高校創作部門・高校ダンス部文部科学大臣賞第1位受賞作品の披露も。照会は同院キリスト教センター03(5370)3038。

▽東京聖三一教会で「東アフリカの子どもを救う会・アルディナウペボ」報告会 16日(日)14時半から。ウガンダやケニアの現地を視察して帰国した荒川勝己コーディネーター、岩井雪乃スタッフの現況報告を中心に。会場TEL03(3421)3646。同会事務局TEL046(253)7993。

【学びと働きから】89

ランベス会議報告(3)

主教 植田仁太郎

今回の会議の柱のひとつは、主教達の勉強会ともいえるべき、あるテーマについての意見交換でした。そのテーマの最もホットなものは、同性愛の人をどのように受け入れるかをめぐる諸見解でした。もともと、意見交換の基本姿勢は「互いに聴く」ということです。何が正しいか、を争う論争ではありません。

人間の性の問題についての諸見解もそうですが、その意見の違いは、まさに、もうひとつのテーマである「聖書をどう読むか」ということに深く関わって

いると思います。聖公会では、「聖書を教会の伝統と人間の理性をふまえて読む」ということを原則にしてきました。けれども二千年にわたる教会の歴史の大部分は、聖書という書物に一般の信徒が触れる、読むということがほとんどない、という時代でした。印刷や紙の普及、教育の普及があつて初めて、誰でもが聖書を読み、理解する、という状況になりました。またそのことが、かえって聖書の一字一句を誤りのない神のことばであるという主張のような硬直した立場を生み出しました。

そういう中で、「教会の伝統と人間の理性」をふまえて読むという聖公会の原則が打ち立てられたのでしよう。人間

の性の問題を信仰的に理解する上でも、そのような姿勢をもって聖書と取り組むことになるのでしよう。

最後に、今回の会議では、何々を決定しましたという報告は全くできないのですが、会議中、毎日行った小グループでの聖書研究は、全ての主教にとって実に豊かなそして深い交わりの時であつたと、感謝されていることをお伝えしたいと思います。

皆さまのお祈りとお支えのうちに、会議出席の機会を与えられましたことを感謝します。

(了)

*ランベス会議はカンタベリー大主教召集の全聖公会主教会議(10年に1度、開催)。